

## ナミハダニ寄生のイチゴ品種間の差

### 1 はじめに

イチゴを栽培していると、いつの間にか葉の上がクモの巣を張ったようになることがあります。これはハダニと呼ばれる虫が大量に発生したためです。ハダニが大量に発生すると、イチゴの葉がクモの巣を張ったようになるほか、イチゴの葉にカスリ状の被害が出ます。ひどくなると、株が衰弱して果実が甘くなくなり、最後には枯れてしまいます。それでは大変なので、農家はハダニの防除に苦労しています。

ナミハダニ (*Tetranychus urticae* Koch) とカンザワハダニ (*Tetranychus kanzawai* Kishida) の2種がイチゴに寄生する主要なハダニです。イチゴ以外の作物にも被害を与えます。例えば、ナスやピーマン、メロン、さといも、ナシ、ブドウなどなど、数え上げればきりがありません。キクやバラなど花き類にも見られ、果樹・野菜・花き類の害虫として知られています。



図1 ハダニに被害され、クモの巣を張ったようなイチゴ葉

さて、イチゴには多くの品種があります。「とちおとめ」「紅ほっぺ」「さがほのか」や「やよいひめ」など、小売店でいろいろな品種が並んでいます。これらの品種にもやはりハダニが寄生し

ます。しかしながら、複数のイチゴ品種を同時に栽培すると、ハダニの発生が多い品種と少ない品種があるように見えます。品種間で差があれば、防除が少なく済むものとそうでないものに分けることができます。そこで、イチゴの品種間にハダニの寄生が本当に異なっているのか試験をしました。

### 2 ハダニが好む品種は？

主要なイチゴの品種「とちおとめ」「紅ほっぺ」「さがほのか」「やよいひめ」「かおり野」の5品種を試験に用いました。これら品種の苗をばらばらに並べて、真ん中にナミハダニを寄生させた苗を置きました。試験に使用した品種間でナミハダニの寄生に差が無ければ、最初に寄生させておいた苗から同心円状に広がっていくはずですが、6週間程度放置しておいたところ、どの品種にもナミハダニは寄生していましたが、「やよいひめ」に特に多くの個体が寄生していましたが（図2）。見た目の被害も5段階で評価するとナミハダニの寄生個体数と同様に「やよいひめ」の被害程度が高い傾向が見られました（表）。

このことから、試験した5品種の中で「やよいひめ」が最も寄生されやすい品種であることがわかりました。



図2 ハダニ接種試験の結果

表 供試品種の平均被害度\*1

	供試株数 (反復数:5)	平均被害度*2
さがほのか	n=25	49.25 <sup>a</sup>
紅ほっぺ	n=25	48.75 <sup>a</sup>
とちおとめ	n=25	45.00 <sup>a</sup>
やよいひめ	n=25	59.75 <sup>b</sup>
かおり野	n=25	47.00 <sup>a</sup>

\*1 1反復あたり5株を供試し、供試株の上位4葉の被害程度から被害度を算出した。各反復の被害度の平均を平均被害度として示した。

被害度=(各葉被害程度の合計)/(調査葉数×4)×100

\*2 被害度を元に、順位和検定を行った。異なるアルファベット間に有意差があることを示す(U-test,  $p < 0.01$ )。

### 3 品種により寄生個体数に差があるのはなぜ？

ナミハダニは歩いて移動しますが、餌となる植物に匂いで引き付けられないとされています(Yano et al, 1998, Exp. Appl. Acarol., 22:595-601)。なぜ、一部の品種では寄生個体数が多くなってしまっているのでしょうか？今回の試験では、残念ながら理由がはっきりしませんでした。今後、改めて試験を行い解明していきたいと思えます。

#### 【問い合わせ先】

農業技術研究センター品種開発・ブランド育成研究担当

電話：048-536-0311（代表） FAX：048-536-0315

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/index.html>